

令和元年度 大阪府立吹田支援学校 第3回学校運営協議会記録

日 時：令和2年1月21日（火）10:00～12:00 場所：本校会議室

出席者：学校運営協議会委員（5名：私立大学講師、吹田市立中学校校長、私立保育園園長、特定非営利活動法人代表理事、本校PTA副会長）、校長、事務局（8名）、本校職員（進路部より1名）

1 校長挨拶

本日はよろしくお願ひいたします。

インフルエンザが流行しており、本校も小学部にて欠席者が目立ってきている状況です。今後経過を注視していきます。

本校は、オリンピックパラリンピック教育実施校の「よういどんスクール」に認定されており、オリンピックパラリンピックに向け、教育活動をしています。2月1日の作品展当日には、オリンピックパラリンピックに因んだ作品展示、また公式キャラクターの「ミライトワ」「ソメイティ」がやってきて子どもたちとの交流を予定しております。

本日は3回目となります。来年度の学校経営計画について協議とご承認をよろしくお願ひします。

2 報告

<令和元年度 進路状況について>

- ・高等部3年生の進路先について現状を資料もとに報告。

<令和元年度 学校教育自己診断について（2回目に引き続き）>

- ・学校教育自己診断の結果と考察について資料をもとに報告。
- ・回収率ややアップした。
- ・保護者、児童生徒、教職員を対象にしたアンケートをそれぞれ集計。
- ・項目ごとに肯定的評価と否定的評価をパーセントで集計。
- ・肯定的評価は70%以上で達成 否定的評価は30%以上で未達成とした。
- ・ほぼ全ての項目で達成し、未達成の項目はなかった。
- ・より詳細に結果を分析するために、学習指導、進路指導といった観点別の評価も行う
- ・今後に向けての検討事項として、「食育」をあげている。
- ・学部ごとに検討し、出された意見を集約中である。

<令和元年度 学校経営計画、評価について>

＊＊校長より平成31年度の学校経営計画、評価についての報告＊＊

- ・資料をもとに、とくに、学校教育自己診断の結果と分析について報告
→保護者アンケートの回収率アップを目指したが微増。質問数を減らしたが、大幅アッ

プにはつながらなかった。

→児童生徒、保護者、教職員を対象にしたアンケートをそれぞれ観点別に見て%の推移をみた。

→児童生徒については、進路の項目が達成せず。

→保護者については、進路指導について 進路+11%とはなったが、もう一息上げたいところ。キャリアパスポートの取り組みで上げていきたい

→いじめの項目についてはわからないとの回答多く、これをどう分析するかが課題

→教員については、進路指導の評価が学部によって依然として差がある。進路研修や学部間の連携授業を実施し、その効果は認められるものの、更なる取り組みが必要

＊ ＊校長より令和2年度の学校経営計画、評価（案）についての報告 ＊ ＊

- ・資料をもとに説明
- ・めざす学校像の2の表記をキャリア教育の点から変更。
- ・中期的目標<たのしく>に、シラバス、キャリアパスポート、評価の観点、ICT 活用について追記
- ・中期的目標<ゆたかに>に、職業コースの学級編成の変更について追記。「教員全員が進路指導」の意識を高める。障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進を引き続き図る。
- ・中期的目標<元気よく>に、引き続き、「人権研修」「防災・・・ハザードマップ、PTAとの連携訓練」について表記。「働き方改革」については風通しの良い職場作り、ストレスチェックの指標の数値減を引き続き対策を検討する。

3 校長より終業式、始業式のスライド紹介

- ・2学期の終業式、始業式で子どもたちに見せたパワーポイントのスライドを紹介。
- ・内容として、行事の振り返りなど。さらに、「ミライトワ」「ソメイティ」に絡め、オリンピックについても紹介。子どもはよく見てくれており、質問にも意欲的に回答してくれる。

4 高等部授業見学

- ・高等部合同体育の授業見学
- ・1コマ50分の2コマ続き（10：35～12：25）
- ・合同体育の縦割りのグループ編成。
- ・今回は、「体力作り」を課題としたAグループ（生徒23名）の授業を見学
- ・内容は、ウォーキング、筋力トレーニング、ストレッチ

（休憩）

5 協議（進行はA委員）

<授業見学について>

・C委員：高等部の体育の様子を初めて見ました。体力作りとのことで歩いていたが、歩くという活動一つでも指導の大変さを感じました。高等部の生徒なので体も大きいことあるので。

・B委員：同感です。指導する教員の体力面でのご苦労を感じました。

・D委員：コートやジャンパーなど教員の服装はどうでしょうか。体育館が寒いのでやむをえないかもしれないが、体育という活動にふさわしい身なりという点で。あと、先生たちが静かなことも気になりました。声をあげている一人の先生以外、静か。体育の活動らしく声を掛け合うなど先生たちにもっと元気を出してほしいと思いました。

・E委員：私は逆に、運動が十分できない子どもたちということもあるので、体育館が活動するには寒いのではないかと心配でした。ストーブなどもっと温めるなどの対応はどうでしょうか。

・A委員：温まるぐらいの運動量の確保、目一杯動ける活動を体育では求められています。気になったのは、口を開けっ放しの子が多いこと。運動以前の課題として、鼻呼吸を教える必要があるのでは。まずは鼻を噛むところから教えるのがスタート。感染防止など身を守ることにもつながります。

<進路について>

・A委員：進路が未決定者の見通しはどうでしょうか？

・進路：行政レベルでも幹旋に動いており、ほぼほぼ決定しています。

<学校教育自己診断について>

＊＊児童・生徒集計結果2について＊＊

・E委員：この項目だけ肯定的評価が低いのが気になりました。質問分の「大きくなったとき」という意味を子どもが理解していないのでは。例えば、卒業してから何がしたいか？などわかりやすくするのはどうでしょう。

・教頭：集計のため、3学部とも同じ質問文にしています。どの学部の子どもにとってもまだイメージしやすいかなと考え、この文面にしたという経緯があります。

・A委員：では、各部の子どもの理解に合わせて、質問文に（ ）で補足を入れるのはどうでしょう？

・D 委員：補助説明が要りますね。

・教 頭：各学部の子どもの理解という点では、まず、学部で、「かな」か「漢字」で表記を分けています。さらに、項目にイラストをつけて、質問文の補助をする工夫をはしているのですが。

・E 委員：たとえば、「将来の夢は？どんなことしたいかな？」というような質問文はどうでしょうか？

・A 委員：ご意見を踏まえて、またご検討ください。あと、この項目は、先生たちが、子どもたちにそのような機会を作っているかという問いでもあり、先生たちの進路についての日頃の姿勢も問われていると思いますので、その点もご検討ください。

＊ ＊食育の項目について＊ ＊

・D 委員：食育について伺います。食育といってもいろんな捉え方があると思いますが、どんな内容を想定しているのでしょうか。

・教 頭：調理指導・偏食指導・栄養についての学習・収穫と調理など、今回のアンケートでは、範囲を広くしています。今後、工夫できるところは工夫するよう各学部で検討をはじめているところです。

・D 委員：食育については保護者の考えもあるので、配慮すべきことは多いように思います。ところで、給食は美味しいですか？確か前に三ツ星のシェフと共同して、和食メニューを開発するというのをやっていたね。今でも続いているのでしょうか？

・校 長：続いています。

・D 委員：和食ということでは、野菜や酢の物などに苦手意識を持っている子どもも多いですよ。そのあたりが集計結果にも関係しているのではないのでしょうか。

・校 長：たとえば、子どもが苦手な納豆は給食で1年に数回出ます。苦手ですが栄養的には優れた食品ということで、あえて食育として普段は食べないような和食をメニューとしていることがあります。その指導の際には、教員もパワーがいらいます。また、梅干しもタネ付きで出ることがあります。栄養教諭の思いとしては、タネや骨などは食べ物にはつきものであり、食育としてそれらに気をつけて食べてほしいということがあります。一方で、教室にて食事指導をする教員は、指導での安全、誤飲などの事故防止という思いがあります。仕

事内容によって、食育への意識の違いがあるのは当然ですし、そこを、給食調理連絡調整委員会等で指導のあり方を調整しています。

・A 委員：家庭では準備がむずかしく、給食でしか食べられないメニューもありますよね。食の範囲が狭くなるのは、食育という点ではのぞましくはないように思います。

・D 委員：食事指導で、食べられないのが食べられるようになったという話もよく聞きますが、無理やり食べさせておこなうというのもどうかと思う保護者もいることでしょうか。

・A 委員：食育については、改善点を検討することですので、来年度期待しましょう。

<令和元年度 学校経営計画及び学校評価について>

＊＊学校教育自己診断の結果と分析の項目から＊＊

・D 委員：「いじめ」に関する項目の結果と分析に関して発言します。生徒指導の上では「この事象がいじめにつながるかもしれない」と判断できる感性が必要に思います。実際、そういった場面に遭遇しても、いじめとは思わず見過ごしてしまうこともあるのではないのでしょうか。保護者と教員の「いじめ」に対する意識のギャップがあるなら、それを埋めることも必要です。

・B 委員：教員の92%は、いじめを見逃さない体制をとっている、日々やっていると肯定的評価をしています。これと比べると、保護者のほうは肯定的評価が低いです。ただ、否定的評価はわずかなので指導についての不満は少ないといえます。校長先生も先に言っておられましたが、「わからない」と評価する保護者が多いようです。なぜ、「わからない」という評価が多いのか、その辺りどう考えたらいいでしょうか。

・D 委員：「いじめ」かどうか、その捉え方が人によってちがうということがそもそもありますので、設問文をより具体的にすることも必要かもしれませんね。あと、保護者には学校が「いじめ」防止のために努力しているかよく見えないということもあるのでしょうか。

・E 委員：「いじめ」とまではいきませんが、子どもが友だちと細かなトラブルがあった時には、担任の先生にきちんと対応してもらっていると感じています。

・B 委員：「いじめ」という表記からは深刻な意味合いがありますので、ならば、保護者の評価で「わからない」というのが多いのは、ある意味、学校が「平和」とも考えられます。

・校 長：「いじめ」の項目は府教委の指示で自己診断に入れるべき項目となっていますので、表記を実情に合わせ変えることはできないですね。

・B委員：「いじめ」事象となると、保護者の中で噂として共有されることとなります。そうなれば学校への否定的評価はぐんとあがるでしょう。そういう点からは、「わからない」の評価が多いのは、そういう話題が保護者間でないので「わからない」と読み取れるようにも思います。よって、「わからない」という評価を必ずしもマイナス評価と捉えることは無いと思います。

・校 長：「わからない」という返答については、より分析が必要ですね。

・B委員：そうですね。例えば、「わからない」の評価が多いのは、「いじめ」のようなセンシティブ情報が関係者以外に漏洩していないとも読み取れます。

・A委員：これらの意見を参考に、今後さらに分析を進めてください。では、昨年度の学校経営計画及び学校評価が了承されたとします。

<令和2年度 学校経営計画及び学校評価について>

＊＊進路指導について＊＊

・D委員：進路指導について伺います。進路指導を全教員でとのことですが、印象として、進路担当の先生が就労・福祉についてよく知っているように見えます。一方、担任の先生はどこまでわかっているのでしょうか？この辺りは、どこの学校においても弱いところだとは思いますが。

・校 長：そういった現状があると認識し、これまでも進路に関する研修を進めてきました。今は、担任も進路指導にという気運が高まってきたという状況とします。それを来年度生かしたいと考えます。

・A委員：進路指導を充実させていこうということで、確認しました。

＊＊職場の風通し＊＊

・校 長：「職場の風通し」ということでご意見を伺いたいと思います。校長としては、報告が教員から上がり、情報共有もされているので、こういう意味では決して悪いとは思っていないのですが。

・B委員：確かに判断が難しいですね。「風通し」という言葉がそもそも抽象的です。よく言われるのが、小は学級王国、中は学年王国。学校全体という意識をもっているかということも気になっています。また、昔は、一つの行事が終わると打ち上げ的な会があり、本音で語るなどして、その場が教員間の意識の風通しを作っていたように思います。今は、教員の

意識もだいぶ変わってきて、また、働き方改革もあり、「風通し」のための場や時間がそもそも持ちにくいということも関係しているかもしれません。

・校長：支援学校の場合は、学部間に垣根を感じています。その垣根を越える取り組みをやってきました。たとえば、小中連携授業。生徒の交流が主目的ですが、教員間でも互いの仕事ぶりを知り、理解するということで効果があると感じました。同様に、中高では、進路関係についての連携授業があります。

・D委員：うちの職場では、ヒヤリハットを共有するために、報告をまめに出していこう、それを互いが見ることで共有を進めていこうという試みをやったことがありますが、あまり機能しませんでした。

・C委員：うちの職場では、ほぼほぼ20代の職員が多いということで、年齢が近いこともあり普段からの話はよくできているように思います。工夫しているのは、お昼は必ず食堂で取ろうという申し合わせがあり、そこが情報共有の場となり、親密度アップにつながっていると思っています。あと、別意見ですが、ストレスチェックパーセントが高いのは、これは風通しの問題というよりも、仕事量の多さにむしろ関係しているように思います。学校の教員の残業の多いという実態に驚いています。そのあたりの対応も必要と思います。

・A委員：残業については、教員の意識として、時間までに終わらせようという意識をどう持てるかということにも関係していると思っています。その上で、仕事量の適正を検討していく必要があるでしょう。

・A委員：意見も出尽くしたようです。来年度についても了承と確認させていただきます。

以上で協議終了

6 本日のまとめと挨拶 略

7 事務局より 委員の退任について連絡

閉会